

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

○施策の目標の達成度を測る指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	公開	○	○	%	63.2%	62.3%	65.8%	63.0%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
○基礎的な状況を継続的に観測する指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標2	志願者総数	公開	○	○	人	6,908	9,478	8,737	8,610	
指標3	志願者倍率	公開	○	○	倍	9.0	12.3	11.3	11.2	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	公開	○	○	%					近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

注)全学的な視点、個別的な視点について
全学的な視点とは入試部の進捗状況報告シートに表示される項目
個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目

学科再編を実施した2003年度から6年間、学部の志願者・合格者・入学者の数値に大きな変動はなく、入学者の構成比率は、一般入試(65.8%)は全学部平均値(63.1%)に近く、各種入試(32.5%)も同様(全学平均30.2%)である。他学部との違いが顕著なのは、アドミッション・オフィス入試(0.3%)や社会人入試・留学生入試・帰国生徒入試(1.4%)の占める割合の低さである(全学平均はそれぞれ4.5%と2.3%)。そこでアドミッション・オフィス入試については、これまで募集人数枠を一般5名、社会人5名、帰国生徒10名としていたものを、全体で20名の一括募集とし、選抜をより柔軟な形に改めた。

総合心理科学科は、2009年度の臨床教育学専修の教育学部への移籍にともない、心理科学専修の一専修とする再編を実施する。再編された学科・専修については、パンフレット・インターネット上のホームページ・ポスターなどを通じて広報活動を実施していく。2008年度入学者より専修毎の募集とした文化歴史学科は、すでに専修毎の募集を実施している文学言語学科と同様、専修毎の志望者数にかなりの偏りが生じたため、志望者数の偏差がより小さくなるよう、模擬授業やオープンキャンパスなどの実施に一層の充実を図っている。また、新たな入学生については、転科・転専修を従来の2年次以上に加え、1年次においても申請を可能とすることで、進路についての柔軟性を確保した。さらに、学部委員会の下に新たに入試制度検討小委員会を設けて、一般入試・各種入試・アドミッション・オフィス入試など学部のすべての入試制度のあり方について常時検討を継続している。

学内第三者評価

アドミッションズ・オフィス入試の拡充等多様な学生の受け入れをめざした取り組みや、入学後の進路決定の柔軟性への取り組みが進められている。学生の受け入れ方法が学部の教育成果といかに結びつくかは難しい問題であるが、3学科体制への改編や専門性を明確にしながらも学部全体の教育を重視するという文学部の教育改革の方向性に、現在の学生の選抜方法がかなっているのかどうかひきつづき検討が進められることを期待したい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
AO入試の入学者数が少ないが、指定校推薦枠が約3割と高いのが特徴とみられるが、この方針と多様な学生の受け入れとどのようにつながっているのか、検証作業を行うことが期待される。
2007年度学内第三者評価にもあるが、社会人学生、留学生に関する目標や課題設定がない点に留意する必要がある。